

“沢田穰治 trio”

かみむら泰一 tenor & soprano sax

馬場孝喜 guitar

沢田穰治 contrabass

2023 07月22日 (土)

開場 19:30 night live

開演 20:00

(2ステージ入替無) (1drink=600)

MC=3700+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail : info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



馬場孝喜

京都府出身。中学時代からギターを始める。2004年、ニューヨーク〜ブラジルに渡航し、ギタリスト Bilinho Teixeira に師事。ボサノバ、サンバ、ショロなどのブラジル音楽に傾倒する。2005年ギブソン・ジャズギターコンテスト最優秀ギタリスト賞受賞。2006年11月25日に京都コンサートホールで行なわれた「佐山雅弘 PLAYS ゴールドベルク変奏曲」第二部の佐山雅弘トリオに参加。2008年より拠点を関西から東京に移す。佐山雅弘、井上智、大坂昌彦、沢田穰治など多数のミュージシャンと共演。現在、自身のグループや様々なセッション、レコーディング、講師など幅広く活動している。2013年11月20日、初となるリーダーアルバム『GRAY-ZONE』を Song & Co. レーベルよりリリース。

かみむら泰一

響きと空間とジャズをテーマに独自の音楽を創作している。東京都出身。85年よりサクソ奏者として活動を開始。94年訪米、ボストン、NYで活動、NY滞在中にデューイ・レッドマンより直々に指導を受けサクソの響きの神髄を伝授される。2000年に帰国、オリジナル・ジャズと完全即興演奏の活動を始める。かみむら泰一 Quartet で「A girl from New Mexico」、「喉の奥から生まれそうな感じ」、Sax Trio オチコチ (是安則克 b、橋本学 dr) をリリース。2014年よりコントラバス奏者の齋藤徹氏と活動を始め Choro に取り組む。Duo アルバム、かみむら泰一 & 齋藤徹「choro&improvisation」をリリース、2021年にはスイス人ピアニストのクリス・ウィーゼンダンガーと「山の猫は水脈をたどる」を制作。2015年ごろよりオーネット・コールマンのフリージャズに興味を持ち、オーネットジャムセッションを定期的開催したり、ギタリストの古和靖章氏とのユニット「NetteNix」の活動を通じてより自由なジャズ言語の可能性を深めている。2021年に京都に移住、大阪、京都でもオーネット jam セッションを始め、また沢田穰治氏との出会いから「タユタフカルテット」(marron g 沼直也 dr) や様々なセッションを展開中。

沢田穰治

ChoroClub のベーシストでありながら、様々な楽器を愉しむ。その活動は幅広く、ジャンルにとらわれない活動が続けながら様々なアーティストのプロデュースや映画、アニメ、ドラマなどの音楽制作なども多い。近年の作品にはアントニオ・カルロス・ジョビンの作品集「Canta Jobim」、2011年の震災を受け止めて音楽として昇華した「NO NUKES JAZZ ORCHESTRA」、「武満徹ソングブック」等、最近ではジャズギタリスト馬場孝喜「Gray Zone」、日本初録音となるジョージ・クラム作曲『マクロコスモス II』や畠山美由紀「歌で逢いましょう」などをプロデュース。アレンジャーとして今までおたか静流、川本真琴、フィッシュマンズ、忌野清志郎、太田裕美、バッファロードーター、上間綾乃、松下奈緒などほか、多数手がける。活動においてはアルゼンチンやブラジルの音楽家からの信頼もあつく、レコーディングやセッションを重ねている。直近でのリリースでは高木正勝、渡辺亮、馬場孝喜など京都ゆかりの音楽家と共に制作した「Closeness Ensemble of Kyoto / WaBaSaTa」が song x jazz からリリース。